

心通わせ 15 春闘で職場と生活改善を！ 近畿地協春闘学習会に43人

2月14～15日、京都市ホテル本能寺で近畿地協2015春闘学習会が開催され、近畿地協はもとより、北陸地協・米子・島根中央の仲間など43人（うち女性6人）が参加しました。岡野議長は挨拶で「15春闘では、消費税増税・物価高による生活悪化を改善させ、格差は正に取り組んでいきましょう」と呼びかけました。



講演では昨年に続き、全労連伊藤雇用・労働法制局長が「2015春闘情勢について」と題し、スクリーンを使って豊富な資料をもとに解説されました。

「先進国は全て物価上昇を上回る賃上げが行われている中で、日本だけ賃金が上がらず、低所得者層が増大し、実質賃金は18カ月連続して下がり続けている（2014年12月）。そのうえ生活必需品の上昇が顕著になっていることを指摘、今春闘での大幅賃上げが一層切実になっている」ことを強調。さらに「非正規労働者の劣悪な賃金・労働条件が正規労働者の労働価値自体を押し下げている」として、アメリカのマグドナルドなどファーストフード労働者の運動を映像で紹介しました。米国ファーストフード労働者は「15ドルと労働組合を勝ちとろう！」とのスローガンで、最低賃金15ドル（約1700円）と、少数組合には認められていない交渉権の獲得をめざし、全米各地で仲間づくりの運動を展開しています。

伊藤講師は、組合員拡大の具体的実践例や、春闘に向けて「累積赤字でも賃上げしている会社がいくらでも存在していること」や「賃上げは労働者への投資であり、ベアゼロは労働者の命を奪う愚かな経営である」と参加者を大きく激励しました。

京都北都・武生・大同の仲間が特別報告と訴え

講演に続いて、京都北都の仲間が、「給与規程の一部改定による中高年層の大幅賃下げ」提案とのたたかいを特別報告。「経営者による大口不正融資を公益通報して懲戒

解雇」された武生の仲間と、「新入職員の試用期間満了で解雇された」大同信組（大阪）の仲間は裁判闘争への支援を訴えました。

理不尽な職場実態に強い怒り

阿部事務局長による問題提起の後、3つの班で行なわれた分散会では、職場実態や2015春闘への思いなどを出し合いました。

「これから社会を背負っていく若い人たちを会社の都合で簡単に解雇することに怒りを覚える」「職場がギスギスして仕事がやりにくい」「『自主』『任意』という名で休日に勉強会をやっているのは、せこすぎる」「経営者はコンプラ違反でも何のお咎めもないのに、労働者は事務ミスでクビになるなんておかしい」「地域の人口が減っているのに、業績目標だけ右肩上がりでは、こなせるはずがない」「『有給休暇をとるなど社会人として考えられない』と上司から言われたが、おかしくないですか」「なんの理由も示さず、いきなり降格の辞令が渡され、悔しくてならない」「非正規労働者が獲得してきた優良大口顧客は次々に正社員に担当が変えられるのでは、やってられな



い」「『全員営業』という口実で渉外手当をなくそうとしている」「店頭での苦情処理を非正規労働者に担当させているのは理解できない」「上司に同行訪問されたら顧客からの苦情が相次いでいる。お客さんを怒らせるような同行訪問ならやめてほしい」等々、現場の仲間の「怒り」が炸裂しました。

夜の交流会では、各単組の仲間の紹介などもあり、日帰り参加者も「二次交流会」まで参加し、「こんな楽しい集まりなら泊ればよかった」などと最終電車間際まで交流していました。

翌日の最後の全体会議では、車谷副議長が、「声かけを続けて組織拡大を図り、強い交渉力をもつ労働組合をつくって山積する難問を解決していこう」と閉会のあいさつを行い、ガンバロウを三唱して終了しました。

労働者以上に厳しい中小業者の現状(京都で実態交流)

2月1日、京都市内で協同組合京都府商工業者連盟主催の「商売のヒント交流会」が開催され、40人を超える中小業者の方々が参加しました。

今回の交流会では、「金融機関とうまく付き合う方法」と題して、金融労連・同近畿地協から4人が参加して、リレー講演の後、活発な質疑応答と名刺交換会が行なわれました。

講演では、金融労連田畑書記長が「金融機関は何を見ているか」という点を中心に解説し、自らの商売の問題点を事業主が本当に把握することの大切さや金融機関との信頼を築くために、正直に経営の実態や事業に対する熱い思いを語ることの重要性を訴えました。

近畿地協阿部事務局長は、京都北部の厳しい経済状況を京都北都信金の調査資料などをもとに説明し、地産地消型の地域再生への必要性を講演。金融労連橋本中央執行委員は、金融機関の現場の視点から、融資申し込みに当たっての留意点などを自らの経験から具体的に解説。

最後に金融労連中島委員長が、地域経済の再生に向けて労働者の大幅賃上げや労働時間短縮などによって、地域でお金を使うことなどの重要性を講演しました。

質疑応答では、経営者保証を外した際の「証券化」

などのリスクへの不安や、融資の諾否の金融機関の回答が遅いことや、財務内容重視で事業意欲や商売の実



態を見てくれないことなどへの不満が出されました。

また、事業計画作成のポイントなどへの質問も相次いで出されました。

第二部の名刺交換会では、業者の方々から個別に商売の現状の厳しさや具体的な金融機関名をあげての苦情などが寄せられ、労働者以上に厳しい中小業者の実態を肌で感じると同時に地域金融機関の使命を改めて考えさせられ、「活きた勉強」ができました。

みどうすじ総行動労働法制学習会

「戦後の労働法制が根幹から崩されようとしている」という危機感のもと、2月12日、大阪市内で「みどうすじ総行動」の労働法制学習会が開催され40人近くの



(いちご春闘と名づけて取り組む自治体労働者)

労働者が参加しました。元・労働基準監督官の宮木さんが、「パワハラや定年再雇用問題では、残業代未払いなどの労働基準法違反がない限り労基署としては動けない」など自らの職務の限界なども披露しながら、「残業代ゼロ」や「生涯ハケン」を可能にする法改悪などを中心に「ここまでやるか!」と思われる大改悪のねらいや緊急の闘いの必要性などを講演しました。

自治体の仲間からは、15春闘を「いちご春闘」と命名して楽しくワイワイ取り組んでいることなどが報告されました。金融ユニオンからも大阪の仲間7人が参加しました。

春闘学習会感想文より

- ★組織拡大のため頑張ってみようと思う内容でした。
- ★武生信金の実態についても聞けて、今後支援していく気持ちが出てきた。
- ★マグドナルドの具体的事例は大変良かったです。
- ★交流会は食事も良かったし満足でした。
- ★参加していろいろな話ができて気が晴れました。
- ★わかりやすい資料を準備して説明していただき良かった。
- ★もう少し、裁量労働制・残業代ゼロの方針に対する労働組合としての対策を聞きたかった。
- ★異業種間での労働者の意見交換が必要との認識を持った。
- ★対話・声かけの重要性がわかった。
- ★組織していく上でのリーダーの評価など実践に活かしていきたい。
- ★もっと新入生や第二組合の人とも対話をしていかなければと思った。
- ★特別報告にて試用期間時におけるミス等での解雇の話が印象深かった。僕自身、ミスをして覚えていき育ててもらったので、話を聞いて驚きました。
- ★北陸地協では1日の日程で行っていますが、近畿さんのように2日間での開催は大変良いと思います。参加される方々とより多く話ることができるのが最大の魅力でした。
- ★プロジェクターを使用した視覚に訴える手法は、これからも導入してもらえたらと思います。
- ★労働条件一覧表などを分散会資料として考えたらどうでしょうか
- ★私たち労働者への投資なくして事業目標達成はない。